

いの 祈りに生きた人々

Monks devoted lifetime to worship

美濃加茂は、民衆に対し精力的に活動を行った僧である円空、白隠、播隆と深い関わりがあります。彼らは、泰平の世にありながら、あえて厳しい修行をみずからに課し、諸国を行脚しながら仏の道を説きました。その活動は地方の地域社会の暮らしに溶

け込んだ草の根レベルのもので、どこまでも民衆に寄り添っていました。彼らがこの地を選んだ背景としては、修行にうってつけの豊かな自然や文化的環境、また彼らを温かく受け入れ支援する人々の存在があったのでしょうか。

えん くう 円空 -Enku- (1632~1695)

円空は、美濃国出身の修験僧です。全国を行脚しながら、生涯をかけて膨大な数の木像を彫り続け、その生涯で残した仏像は 12 万體ともいわれています。ノミとナタの彫り痕が残る木像は、素朴な美しさを示し、今も人々の心を引き付けています。



もく ぞう ば とう かん のんりゅう ぞう
木造馬頭観音立像 Wooden standing statue of Bato Kannon

美濃加茂市有形文化財 高さ56.8cm 三和町 個人蔵

三和町下甘屋の「観音洞円空窟」は、円空が修行し造像を行った場所と伝えられます。この像はかつて、洞窟付近の祠に安置されていました。その棟札から寛文11（1671）年の制作年代が推定できることは、彼の作風の変遷を知る大きな手掛かりです。

はく いん 白隠 -Hakuin- (1685~1768)

白隠は江戸中期の僧で、臨済宗中興の祖ともいわれます。京都妙心寺の第一座ともなりましたが、のちに諸国を遊歴し、禅の民衆化・革新を遂行しました。なかでも詩文・禅画について、独特の作風を確立したことで知られています。



みの かさ つち ふくろ ず
箕笠槌袋図 A picture scroll depicting items belonging to Daikokuten (紙本墨画)

岐阜県重要文化財 79.3×26.0cm 賑濟寺

「箕」「笠」「槌」「袋」はいずれも大黒天の持ち物で、福を招く宝物とされています。白隠はこの作品で、忠と孝の心こそが、大黒天の宝物より価値のあるものだと言っています。

ばん りゅう 播隆 -Banryu- (1786~1840)

播隆は江戸後期を生きた山岳修行僧です。笠ヶ岳の再興や槍ヶ岳の開山を成し遂げ、安全な登山道の整備を進めるかたわら、民間の布教にも尽力しました。そして天保 11（1840）年、滞在先の太田宿脇本陣において55歳で永眠しました。



ばん りゅう みょう ごう ひ
播隆名号碑 A plinth with a mantra

70cm 祐泉寺

播隆独特の書体による石造の名号碑（南無阿弥陀仏と刻まれた碑）は、可茂地区で 44 基残されています。これらの名号碑から、当時の播隆とこの地域の人々の強いつながりや、人々の深い信仰心がわかります。